



さとのかぜ

No.167、168
合併号

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
2009年7月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地
TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252
URL <http://www.isumi-sato.com/>
e-mail info@isumi-sato.com

センターでハスの花が咲いています



(09.06.21 センター内のハスの花)

ハス（蓮）はスイレン科ハス属の植物で、春に出はじめたころの葉は水面に浮いていますが、その後に出てくる葉は水上に立ち上がります。スイレン（睡蓮）（スイレン科スイレン属の総称）は基本的に浮葉で、葉に切れ込みがあるので、これは分かりやすい違いです。

その後、花茎を出して花を1個つけます。花は早朝に開き午前中にはつぼんでしまいます。そのため、センターでは観賞会の日には午前7時から駐車場をオープンしています。

ところで、このハスの根が普段食べるレンコン（蓮根）です。蓮根は野菜として扱われています。このレンコンはおよそ10個の孔があり、この孔が「見通しがよくなるように」との縁起かつぎの意味をもたせられて、正月料理に欠かせない食材となっています。

24種類のハスの花を6月下旬～9月上旬にかけて見ることができます。

No.	名称	読み	花期	No.	名称	読み	花期
1	大賀蓮	オオガハス	6月下旬～7月下旬	13	白玉蓮	シラタマバス	7月中旬～9月上旬
2	原始蓮	ゲンシバス	7月中旬～8月下旬	14	酔妃蓮	スイヒレン	7月中旬～8月下旬
3	姫蓮	ヒメバス	7月中旬～9月上旬	15	嘉祥蓮	カショウレン	7月中旬～8月下旬
4	蜀紅蓮	ショッコウレン	7月中旬～8月下旬	16	瑞光蓮	ズイコウレン	7月中旬～8月下旬
5	唐蓮	カラバス・トウレン	7月中旬～8月下旬	17	天竺班蓮	テンジクマダラバス	7月中旬～8月下旬
6	紅君子蓮	ベニクンシレン	7月中旬～9月頃	18	大洒錦	タイセイキン	7月中旬～8月下旬
7	即非蓮	ソクヒレン	7月中旬～8月下旬	19	アメリカキバナ蓮	アメリカキバナバス	7月中旬～8月下旬
8	粉川台碗蓮	フンセンダイワンレン	7月～8月	20	バージニア蓮	バージニアバス	7月中旬～8月下旬
9	妙蓮	ミョウレン	8月上旬～8月下旬	21	輪王蓮	リンオウレン	7月中旬～8月下旬
10	真如蓮	シンニョレン	7月下旬～8月下旬	22	紅舞妃蓮	ベニマイヒレン	6月下旬～8月下旬
11	白光蓮	ビヤッコウレン	7月～9月	23	舞妃蓮	マイヒレン	6月中旬～9月上旬
12	白繡蓮	ハクシュウレン	7月中旬～9月上旬	24	ミセス・スローカム	ミセス・スローカム	6月下旬～8月下旬

うが、残念ながら調べた記録がありません。どなたかご存知の方がいらっしゃればセンターへご一報ください。

よくヒツジグサとスイレンを混同されている方がおられますが、スイレンは海外から移入された種や園芸品種の総称で、日本に自生するスイレン属は1種のみで、名前をヒツジ

グサと呼びます。千葉県では数箇所のみ自生しており、千葉県のレッドデータブックに記載された希少種です。ヒツジグサとスイレンを一緒にすると雑種ができ、ヒツジグサはスイレンに取って代わられるようです。

ヒツジグサの名前の由来は未(ひつじ)の刻(PM2:00 ころ)に咲くことからついたそうです。

外来種について

センターでは、設立当時から「ザリガニ釣り」が人気の一つになっています。土曜・日曜に、子どもたちがザリガニ釣りにやってきます。近くの複数の小学校も、校外学習として、アメリカザリガニとの触れ合いを目的に児童をバスに乗せてやってきます。ところが、センターの小川に生息しているザリガニは、アメリカザリガニという種で、最近よく聞く言葉「外来種」という、他の地域からやってきた生き物なのです

《外来・在来生物の説明》

在 来 種：その地域に自然分布を持つ種

外 来 種：その地域に人間活動の結果として分布する種（国外からだけでなく、国内の他地域からの移動を含む）

特定外来生物：生態系・人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物のうち、法律で指定された種

要注意外来生物：特定外来種には選定されていないが、選定するか検討中、または調査不足から未選定とされている種

外来種には、人間がその暮らしのために利用している種が数多くあります。園芸で利用する花や樹木も外来種が数多くありますし、甘い蜂蜜も大半がセイヨウミツバチの働きによって生産されています。ただし、トマトやナスなどの受粉で利用しているセイヨウオオマルハナバチは、特定外来種に指定されました。

外来種は人の活動によって、入ってきたのですから、外種に罪がある訳ではありません。

私たち人間が、それぞれの地域で長い時間を経て育まれた自然を守っていくために、外来種について注意深く考えていかなければいけないと言うことだと思います。

アメリカザリガニは、当初、食用となるウシガエルのえさとして日本に持ち込まれたのですが、要注意外来生物にリストアップされていて、田んぼの畦に穴をあける困りものであることや、小川などの生き物のバランスを狂わせてしまうことも心配されます。当センターでは、生き物とのふれあい体験をする子どもたちへも、上記のことを伝えていきたいと考えています。

最後に、ザリガニ釣りをしている方によく、赤くないアメリカザリガニを、ニホンザリガニかと聞かれることがあります。千葉に生息するザリガニは、全てアメリカザリガニです。ニホンザリガニはアメリカザリガニとの競争に負けて千葉県で絶滅した訳ではなく、元々青森・秋田・岩手・北海道の寒い地方の一部にしか分布していないそうです。



(09. 04. 02 セイヨウミツバチとセイヨウタンポポ)

外来種について詳しい話を知りたい方は、環境省の外来生物法についてのサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/>) をご覧ください。

行事の報告

5月のセンター行事

◇米作り1 田植えをしてみよう 9日

◆山田の鍾乳石をみてみよう 16日

◇センター内小川でのホタル観察会23日

◇米作り1 田植えをしてみよう

お天気にも恵まれ、大人22人、小人9名の計31名の方に参加していただきました！

広場に集合した後、所長の挨拶、田植えの説明と続き、最後の準備として参加者の皆さんで体操をしてから裸足で田んぼに入りました。



田植えの方法は、横一列に並び、縄張りをされた所に植えながら前進というやり方です。

スタッフの予想を上回る早さで、11時には田植えが終了しました。イベントの感想として、

- ・ 素晴らしい自然環境の中で、貴重な体験、実体験がよかった
 - ・ 子供のころは、生活のため否応無く手伝っていた農作業でも、子どもと一緒に米作りの大切さ、大変さを少しでも体験を通して教え続けたい
 - ・ 泥が気持ち良かった
- といった、答えがありました。

作業終了後は、皆さんセンターの広場でお弁当を広げ、また楽しい時間を過ごしていただけたようです。

◆山田の鍾乳石をみてみよう

大人10名、小人3名、計13名の方に参加していただきました！

センターに集合した後、いすみ市山田へ移動しました。見学場所に到着後、鍾乳石の持ち主である林氏により、穴堰についての説明を受けました。



穴堰の見学をする前に、穴堰が掘られている場所の地質の学習をしました。穴堰は全部で第一から第三穴堰に分かれています。その中で第一穴堰と、第二穴堰と第三穴堰を繋ぐ、二五隧道（横2尺、縦5尺で掘られていることからこの名がある）の中に入って鍾乳石を観察しました。

穴堰の中には、トウキョウサンショウウオの幼生や、ニホンアカガエルの成体、サワガニの稚ガニなどの生き物もいました。

穴堰の観察後に、林氏の敷地内にある展望台に登りました。周辺を一望できる展望台で、地元に残る歴史的なお話をしていただけました。

イベントの感想として、

- ・ 身近な所にすばらしい知恵と文化があるのがわかりました
- ・ 昔の水の大切さが分かった

- ・ 説明が興味深くかつ分かりやすかった
といった答えがありました。

★穴堰の簡単な説明★

穴堰とは、山の中腹に横穴を掘り、そこを農業用貯水池にしたものです。この方式は、歴史的土木遺産として価値が高いものです。そのような場所に、更に鍾乳石が見られるということで、イベントを企画して見学させていただきました。しかも、この穴堰の中は、田植えが始まり堰の水が空になる時期しか見られないものなのです。

◇センター内小川でのホタル観察会

お天気にも恵まれ、大人7人、小人2名の計9名の方に参加していただきました！

駐車場に集合し、スタッフの挨拶の後参加者の皆さんも自己紹介をして、少しリラックスモードに。実物のホタルを観察する前に、当施設にある展示物（知識の林）を使ってホタルの一生について学習しました。また、あびこ自然倶楽部の協力により、ヘイケボタルの幼虫を展示していたので、幼虫の観察も行いました。



図書室にてビデオを使用したホタルの一生についての学習した後、センター内の小川に行き、ゲンジボタルの発光を探しました。残念ながら、センター水路ではホタルの発光を確認できませんでした。そこで、同時期にいすみ市山田で行われていた、ホタル祭り会場に移動して、ゲンジボタルを鑑賞することになりました。

こちらでは、多くのホタルを観察することができ、参加者の皆さんも感激したようです。イベントの感想として、

- ・ 何十年くらい前に見たので子供に返ったようにうれしかった
 - ・ なかなか見る事ができないものを、思う存分見る事ができて本当に良かった
 - ・ ホタルについて短時間でも中身の濃いレクチャーを受けられた
- といった、答えをいただきました。

イベント終了後、職員がセンターに戻ったところ、センター内の小川でもゲンジボタルを観察できました。センターのホタルも、いつか皆さんにお見せしたいです。

6月のセンター行事

◇ホタルの里でホタルを見よう6日

◆農機具“唐箕(とうみ)”の実演イベント20日

◇センターの小川の生き物を調べてみよう27日

◇ホタルの里でホタルを見よう

予定していたホタル観察会は、残念ながら雨により中止となりました。

前日からの雨により開催が危ぶまれていましたが、当日の天気予報を見て泣く泣く中止といたしました。ところが、夕方からどんどん天気は良くなり……結局予定開催時間の頃には空は晴れ渡っていました。悔しい！これならイベントできたね～と呟きながら、いや、でも気温が低いからホタルの数も少ないよ！と妙な慰めをし合った職員でした。

◆農機具“唐箕(とうみ)”の実演イベント

いいお天気の中、唐箕の風選を行いました。イベントは出入り自由でしたので、参加者は約40人以上でした。

まず、菜種を唐箕(とうみ)という農機具で、ゴミ(葉や小石等)と分けます。菜種は唐箕の上から小分けにして入れます。菜種を入れたら、後は力いっぱいハンドルを回すだ

けです。この作業は、風の力を使って、ゴミと菜種をより分けるものです。うっかり吹き出し口の前に頭を出して、ゴミ（菜種の葉や小石ですが）だらけになってしまう人も出ました。ハンドルを回すだけで種が分けられるので、子供でも簡単に作業できます。



今回は風選によってより分けられた 32kg の菜種のうち、16kg を搾油機にかけました。

搾油機にかける前に、レンジで少々過熱。熱を加え、油をゆるくして搾りやすくするためだそうです。搾油した後の油かすは良質な肥料になるため、参加者の皆さんで分けて持ち帰りました。育てた菜種で油をとって、残った搾りかすはまた菜種を育てる肥料になる…大変無駄の無い仕組みですね！搾れた油は約 4kg。

16kg 搾油機にかけたので、率で言うと 25% 程度でしょうか。ただし、搾れる量は、機械と腕によって大きく変わるそうです。搾った油は 1 週間くらい置いておくと、油に残った不純物が沈殿して、透明な油になるそうです。良い所だけ搾った良質な油なので、生で食べたり（サラダ・パンにつける等）、てんぷらを揚げたりすると大変美味だそうです。美容と健康にも良いとか！

今回のイベントは

「ちば環境再生基金・菜の花エコプロジェクト」

「夷隅郡市自然を守る会」

との、協働作業で行いました。

実際に行ってみて思った以上に面白いものだったので、今後センターでも特別イベントとして行ってみようか？という案も出ました。

その際はまた告知いたしますので、ぜひ見学にいらして下さい。

◇センターの小川の生き物を調べてみよう

真夏のような暑さの中、センターの小川の生き物調べを行いました。今回は午前・午後の部の 2 回開催しました。参加者は大人 6 名、小人 8 名、計 14 名の方に参加していただきました。

まず、まずセンターに集合した後、湿性生態園へ移動しました。その木道から小川に降りて、網を使った“ガサガサ”^注という方法で魚を捕まえました。下流に網を置き、上流からジャブジャブ音を立てながら川の中を歩き、魚を追いたてます。素早く網をあげると、そこには小エビや小魚がぴちぴちと！網で魚を捕まえる時は、網で魚を追いかけるより、追い込む方法がマルです。その後、センター内の小川に移動して、また“ガサガサ”で魚とり。ドジョウや大きなアメリカザリガニが網に入り、子どもたちは大はしゃぎでした。

注 ガサガサ：水中の石や水草の中に潜んでいる魚を、足でガサガサ揺らして網に追い込んで採る方法の俗称



魚とりの後には、図書室でもう少し魚のお勉強をしました。今日捕まえた魚の種類と、エビの見分け方を勉強しました。ハゼの仲間には背びれが 2 枚あるとか、ザリガニとテナガエビのハサミの違いとかを、学習しました。

午後の部の参加者は、別にメダカの観察も行いました。センター前の小川にできている“メダカの学校”から、小さい網を使ってメダカをすくいました。お腹がパンパンに膨らんだ、卵を持ったメスを観察することができました。

観察後は、小川に生き物たちを戻してあげてイベント終了となりました。イベントのアンケートをとらせて頂いたところ、良かった内容として、

- ・ 魚の名前、特徴を知ることができた
- ・ とても楽しくできた
- ・ 子ども達と一緒に楽しみながら参加できた

- ・ 魚の取り方を教えてもらって良かったです

といった、回答をいただきました。

《今回観察できた生き物達》

モツゴ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、メダカ、ヨシノボリ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ 計 8 種類

これからの行事案内

7月

●ハス鑑賞会

12日(日) 7:00~10:00 参加自由(雨天決行)

きれいに咲くハスの花を觀賞しましょう。

参加対象: どなたでも大歓迎

場所: ネイチャーセンター 生態園(ハス田)

●万木城までの自然観察と里山ハイキング

19日(日) 10:00~13:00 定員 20名

雨天順延 26日(日)

夏の万木城周辺を自然観察しながらハイキングしましょう。

参加対象: 小学4年生以上

場所: 万木城周辺(集合はネイチャーセンター)

持ち物: お弁当、飲み物、山歩きできる服装

●センターの谷津の植物観察

25日(土) 9:00~11:00 定員 20名

雨天順延 8月8日(土)

谷津ではどんな植物が観察できるかな? 観察しましょう。

参加対象: 小学4年生以上

場所: ネイチャーセンター

持ち物: 飲み物、帽子

●センターの谷津植物観察

8日(土) 9:00~11:30 定員 20名

(7月が順延になった場合)

谷津でどんな植物が観察できるかな? 皆で観察しましょう。

参加対象: 小学4年生以上

場所: ネイチャーセンター

持ち物: 飲み物、帽子

●トンボ沼のトンボを見に行こう

22日(土) 9:00~1:30 定員 20名

雨天順延 23日

チョウのように飛ぶチョウトンボ等を探しに行きましょう!

参加対象: 小学4年生以上

場所: スポット6 トンボ沼(集合はネイチャーセンター)

持ち物: 飲み物、帽子

9月

●米作り2・稲刈り体験をしよう

12日(土) 9:00~14:00 定員 40名

雨天順延 13日(日)

春に植えた稲には穂がいっぱい! 皆で刈り取りましょう。

参加対象: 小学生3年生以上

場所: ネイチャーセンター 生態園(水田)

持ち物: 鎌、タオル、軍手、長靴、長袖の服、帽子、お弁当、飲み物

●草木染め体験

26日(土) 10:00~15:00 定員 30名

雨天順延 27日(日)

自然の色で染めてみましょう。

参加対象: 小学生3年生以上

場所: ネイチャーセンター

持ち物: 材料費 - 実費(1,000円程度)、お弁当、飲み物

8月

●海辺の植物観察

1日(土) 9:00~11:30 定員 20名

雨天順延 2日(日)

日本で最初に指定された天然記念物「太東海浜植物群落」に行きます。

参加対象: 小学4年生以上

場所: 「太東海浜植物群落」指定地周辺(集合はネイチャーセンター)

持ち物: 飲み物、帽子

10月

●万木城までの自然観察と里山ハイキング

3日(土) 10:00~13:00 定員 20名

雨天中止

秋の万木城周辺を自然観察しながらハイキングしましょう。

参加対象：小学4年生以上

場所：万木城周辺(集合はネイチャーセンター)

持ち物：お弁当、飲み物、山歩きできる服装

●竹かご教室

10、17、24、31日、11月7日(各土曜日)

10:00~16:00

全5回開催 定員 20名

ひご作りから始めて5回終了までに完成させましょう。

参加対象：高校生以上、全5回参加できる方

場所：ネイチャーセンター

持ち物：竹割、竹ひきのこぎり、剪定ばさみ、膝あて、軍手、お弁当

センターの生き物たち



コオイムシ

田植えの時期に撮った写真です。たくさんの卵を背負っていることから、この名前がついたのでしょうか。



イチョウウキゴケ

今年も水田でみることができました。昔はたくさんあったそうですが、今では出会える機会も減ったコケ植物のひとつです。

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 毎月第3日曜日(9:30~16:00)

場所 ネイチャーセンター

講師 高木守人氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

今年の4月から、当施設の指定管理者は千葉県環境財団になっています。

今までと少し運営の仕方が変わっているかもしれませんが、スタッフ一同知恵を絞りながら毎日の仕事に取り組んでいます。よりよい施設の運営に心がけていますので、よろしく願いいたします。

なお、「さとのかぜ」も毎月の発行から季刊となりました。その分、ページ数も増えています。読みやすい文章を心がけていますので、引き続きご愛読をお願いいたします。

所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

*eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com(すべて半角小文字です))

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。